

Ⅲ 委員会活動

1 学内委員会

1) 委員会および委員一覧

委員会	委員 (◎:委員長、○副委員長)
カリキュラム委員会	◎吉田 礼子 (学科主任・教授)、泉 義雄・中谷 啓子 (教授)、秋元 とし子・瀧澤 直子・中田 芳子・望月 好子 (准教授)
教務委員会	◎望月 好子・丹澤 洋子・林 真理子・吉野 由美子 (准教授)、飯室 淳子・橘田 節子・新村 直子 (講師)、北室 和茂 (事務室員)
学生委員会	◎吉野 由美子・小川 景子 (准教授)、阿部 ケエ子 (講師)、後藤 雪絵 (助教)、西山 京子 (係長)
現代文明論委員会	◎新村 直子 (講師)、秋元 とし子・小川 景子 (准教授)、阿部 ケエ子 (講師)、岩屋 裕美・後藤 雪絵 (助教)
国家試験対策委員会	◎横島 啓子 (准教授)、今瀬 繁子 (教授)、秋元 とし子・小川 景子 (准教授)、2年生代表: 飯室 淳子・橘田 節子 (講師)
国際交流委員会	◎吉田 礼子 (学科主任・教授)、中谷 啓子 (教授)、秋山 英二 (室長補佐)、寺村 絵美 (事務室員)
人権委員会	人権委員: 非公開 相談委員: リーダー◎横島 啓子 (准教授)、飯室 淳子 (講師)、西山 京子 (係長)
FD委員会	◎吉田 礼子 (学科主任・教授)、丹澤 洋子 (准教授)、新村 直子 (講師)
倫理委員会	◎飛田 美穂 (学長補佐・教授)、吉田 礼子 (学科主任・教授)、中谷 啓子 (総合看護研究施設長・教授)、瀧澤 直子 (図書館長・准教授)、横島 啓子 (人権委員会相談委員リーダー・准教授)
年報編集委員会	◎吉田 礼子 (学科主任・教授)、中谷 啓子 (教授)、望月 好子 (准教授)、西山 京子 (係長)

2) 各委員会活動

(1) カリキュラム委員会

A 位置づけ・役割

本学における教育理念を具現化し、時代にあったより良い教育を実践するためカリキュラムに関することについて審議することを目的とし、以下の活動を行う。

- ① カリキュラムの作成に関する事項
- ② カリキュラムの総合的な評価・修正に関する事項

B 活動概要

昨年度のカリキュラム改正時に課題として残った件について検討を進めた。はじめに、改正に伴って生じる留年者への対応として新旧科目の読み替えを検討し決定した。次に、看護技術教育について検討し、技術演習の内容と進行の調整を「技術マトリクス」で行い、技術到達度にむけ

てその実施科目を明確にし調整を図った上で、一覧表を作成した。さらに、学生の自己評価による「看護技術到達度記録」を完成させた。

今後のカリキュラム評価と改善に向けて、長期的なカリキュラム評価計画を立案するとともに、カリキュラム委員会規程を作成し、それらを学長に上申、今後の活用を図った。

さらに、「学士課程教育の構築に向けて」において中央教育審議会より示された成績評価の厳格化等および、時代的狀況を考慮し、実習評価を合否から段階評価へ変更することを再審議し、教授会において決定された。それに伴い、評価規定等を若干修正した。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月8日(水)	① 2009年度活動方針 ② 2009年度検討課題 A 新カリキュラムに関すること a 新旧の科目読み替えについて b 看護技術到達度の授業における取り上げ方の再検討について c 新カリキュラム作成にいたる主要概念の理論的枠組みと学年到達レベルについての見直し B カリキュラム評価に関すること a カリキュラム評価の長期計画 ③ 看護技術到達度記録(案)の検討 ④ その他
2	5月20日(水)	① 新旧の科目読み替えについて ② 新カリキュラム作成プロセスの振り返り ③ 1年生に対する看護技術到達度記録の説明について
3	6月10日(水)	① 本学における技術教育に関する基本的な考え方について ② 「看護技術教育マトリクス」および「卒業時の到達度レベルと実施科目」についての検討課題について
4	7月8日(水)	① カリキュラム評価案の検討 a カリキュラム検討および評価に関する経緯について b 評価領域と評価組織について c 継続的循環的カリキュラム評価計画について ② 実習評価に関して
5	9月9日(水)	① カリキュラム委員会の規程作成に関して ② 実習評価について
	10月14日(水): 拡大領域長会議	① 実習評価について
6	11月11日(水)	① 実習の段階的評価について
7	12月16日(水)	① 「看護技術教育マトリクス」の修正と調整 ② 卒業時の到達度レベルと実施科目の修正と調整
8	1月21日(水)	① 卒業時の到達度レベルと実施科目について ② 看護技術演習マトリクスについて

9	2月10日(水)	①□実習要綱総説の変更について ② カリキュラム改正の振り返りと今後の課題
---	----------	--

(2) 教務委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は学長の諮問機関であり、2003年度改定された教務委員会規程に則って活動する。委員会決定事項は、教務委員長から学科主任へ報告し、必要時企画調整会議に図り、教授会で審議・報告される。

B 活動概要

委員会活動は、前年度の活動報告の実施状況と引継ぎ事項を確認し、教務委員会年間活動計画に基づき活動した。小委員会活動としては、昨年度に引き続き「看護技術教育検討小委員会」、「安全教育検討小委員会」を設け、本学における看護技術教育および安全教育の充実に取り組んだ。

2つの小委員会活動も活発に行われ、年度途中で全教員に協力を求めた事柄および教員対象の報告会などにも、十分な理解協力を得ることができ、委員会活動がスムーズに運営できたと考える。

今年度の活動の概要を以下に示す。

① 看護技術教育検討小委員会の活動内容と次年度への課題

a. 2009年度「看護技術体験記録」の集計・分析結果の報告

前期終了後および全実習終了後に記録を回収し、集計分析を行い、結果については、「ヒヤリ・ハット報告」の集計結果報告とともに、前期と後期に合計2回全体報告会をもち、看護学担当教員（以下、「教員」と略す）間における意見交換を行った。全体の傾向および問題点についての意見交換を通し、教員の共通認識を深めることができた。

b. 看護技術到達度記録の活用について

2009年度生から導入された「看護技術到達度記録」の活用方法について検討した。学生の自己評価の手だてとなるように、IV知識がわかる の項目について、評価の視点を設定することになった。各項目に関連する科目の担当者からの意見をふまえて、1年次終了時に評価できる項目について、評価の視点を定めた。

② 安全教育検討小委員会 活動内容と評価

「ヒヤリ・ハット報告」の集計・分析を行い、学生の臨地実習における問題と安全対策について検討した。全実習終了後の集計分析結果については、「看護技術体験記録」の集計結果報告とともに、前期と後期に合計2回全体報告会をもち、教員間における意見交換を行った。

③ 身体侵襲を伴う看護技術演習「同意確認書」について

今年度も同意確認を文書で行い、本人・保護者へは、新入生オリエンテーション時、学科主任から「同意確認書」に関する説明を行った。同意確認書は、教務委員長が提出を確認し、所定の場所に保管した。

④ 看護学実習オリエンテーションおよび実習病院（東海大学医学部付属病院、東海大学医学部付属大磯病院）との打ち合わせ会の企画・実施

a. 看護学実習オリエンテーションについての企画運営

特に、2年生対象のオリエンテーションは、実習要綱総説の変更点などの説明のための時間を設けた。

b. 実習病院との打ち合わせ会の開催

⑤ 次年度以降の実習計画の立案

付属病院以外の実習施設との打ち合わせは、各領域担当者が行った。

⑥ 講義・実習に関する意見の収集と対策について

前期・後期授業終了後、各教員から講義・実習に関する意見を収集し委員会において検討した。今年度は、特に各教室の視聴覚機器（コンピューター、プロジェクター機器等）を増設・更新することができ、よりよい学習環境が提供できるようになった。実習室物品の貸借用紙・貸借手続きの統一は、2010年度より実施する予定である。

⑦ 実習評価について

領域責任者を通じて2009年度実施された当該実習の評価を依頼し、全実習評価を一覧表にまとめた。次年度も、今年度の評価反省を生かして、学生にとってより良い実習ができるよう、関係諸施設、臨床実習指導者などとの連携を強め、努力していく。

⑧ 実習要綱総説の見直しと修正について

「実習に関する注意事項」「ヒヤリ・ハット報告用紙」を中心に一部修正を行ったので、修正した箇所については必要資料を全在生にも配布し、新年度の実習オリエンテーションなどで説明していくこととした。特に、次年度より、電子カルテ閲覧（付属病院、大磯病院）のためのID・パスワードを学生がもてることになったので、それに向けての注意事項を追加した。

⑨ 次年度への課題

次年度も、授業（講義・演習・実習）が円滑に運営されるよう今年度の活動を継続するとともに、新カリキュラムと旧カリキュラムの学生が同時に学ぶ状況の中で生じる問題などにも柔軟に対応できるように、大学内の関連部署および委員会が密接に連絡を取りありながら協働し、委員会活動を推進していく。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月22日(水)	① 教務委員会規定の確認 ② 活動目標・計画、役割分担の確認 ③ 実習打ち合わせ会役割の確認
2	5月22日(水)	① 小委員会の活動目標・年間行動計画 ② 09KF 看護学実習に関するガイダンスについて（役割確認） ③ 「看護技術水準の手引き」の検討 ④ 「実習中の情報管理について」の検討
3	6月17日(水)	① 小委員会からの報告および検討 ② 2010年度実習計画の検討 ③ 前期、講義・実習に対する意見のとりまとめについて
4	7月15日(水)	① 小委員会からの報告および検討 ② 病院コンピューターアクセス用パスワードの管理について ③ 前期における講義・実習・演習に関する意見の検討 ④ その他 *2010年生の呼称について* 7/29 実習連絡協議会について
5	9月2日(水)	① 小委員会からの報告および検討 *前期における講義・実習に関する意見の報告と今後の対策 *前期の看護技術体験記録集計結果報告と今後の対策 ② 前期における講義・演習・実習に対する意見について検討 ③ 医学部付属病院実習協議会報告 ④ 病院カルテ閲覧用ID番号の取り扱い ⑤ 後期ガイダンスでの2年生への実習ガイダンスの確認

6	10月14日(水)	① 小委員会からの報告および検討 *看護技術到達度記録の活用について 「IV:知識としてわかる」項目について、学生の自己評価のための評価の視点の検討 ② 2010年度実習要綱総説修正・加筆点について ③ 2011年度実習計画について
7	11月18日(水)	① 小委員会からの報告および検討 ② 2010年度実習要綱総説について修正および変更点について検討 ③ 2009年度実習評価について検討
8	12月9日(水)	① 小委員会からの報告および検討 *看護技術到達度記録 「IV:知識としてわかる」項目について、学生の自己評価のための評価の視点の検討 ② 実習要綱総説の修正点検討 ③ 2010年度看護学実習オリエンテーションについて
9	1月27日(水)	① 小委員会からの報告および検討 *看護技術体験記録の集計・分析結果検討 ② 2010年度実習についての検討 *2010年度08KF実習グループ編成について *2010年度08KF・09KF実習ガイダンスについて *2010年度08KF手術室オリエンテーションについて
10	2月17日(水)	① 小委員会からの報告および検討 *「ヒヤリ・ハット報告」の集計結果報告と今後の対策 *看護技術体験記録の集計結果報告と今後の対策 ② 2009年度実習評価について ③ 2009年度後期の講義・演習・実習に対する意見と検討
11	3月17日(水)	① 小委員会から報告および検討 *看護技術到達度記録「IV:知識としてわかる」項目について、学生の自己評価のための評価の視点の検討 ② 2010年度08KF・09KF実習オリエンテーションについて ③ 2010年度実習打ち合わせ会について(伊勢原・大磯) *受け持ち患者さんへの説明内容修正案検討 ④ 2010年度10KFガイダンスについて ⑤ 教務委員会年間活動評価 ⑥ 次年度への課題

(3) 学生委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は学生会活動を側面から支援し、学生一人ひとりが社会人として学生生活を有意義に送るために組織されている、本委員会はいくまでも学生と共に考え、学生会・学友会と一人一人の学生の主体性を尊重するという方針で臨んだ。

B 活動概要

学生生活について、全体ガイダンスにて注意喚起を行い、大きな問題は生じなかった。

学生会活動（学生総会、選挙管理委員会、飛鷗祭、学生交流会、学友会、東海大学短期大学（部）スポーツ大会など）を中心に学生の活動を見守り、適宜、活動の根拠を東海大学医療技術短期大学学生会会則及び東海大学医療技術短期大学学友会会則や社会規範、各活動の活動目標に照らしながら助言・指導をおこなった。また、今年度は学生から卒業記念パーティから謝恩会への企画変更の希望があり、助言・指導により、実現することができた。

飛鷗祭の広報を中心とした対外的活動については、事前の確認を行い、社会人としての責任・マナーを学ぶ機会として今後も支援を継続する必要がある。また、企画内容も、来学された様々な年代・背景の方に満足していただける視点を持てるよう助言・指導を継続する必要がある。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月24日(金)	① 2009年度学生委員会活動について ② その他（学生活動の進捗状況）：総会開催準備 ③ その他（学生活動の進捗状況）：後援会・学生・教職員の三者懇談会に向けて ④ その他（学生活動の進捗状況）：学生会役員と学長との顔合わせの日程調整 ⑤ その他（学生活動の進捗状況）：東海大学短期大学（部）スポーツ大会の実施競技について
2	9月10日(木)	① 連絡・報告事項：飛鷗祭企画進捗状況について ② 連絡・報告事項：第23回短期大学（部）スポーツ大会について ③ 連絡・報告事項：学生会活動の状況（選挙管理委員会に向けて）について ④ 審議事項：後期ガイダンスにむけて ⑤ 審議事項：飛鷗祭時の金銭管理について
3	11月4日(水)	① 連絡・報告事項：学生会活動状況について ② 連絡・報告事項：謝恩会について ③ 審議事項：飛鷗祭振り返り ④ 審議事項：選挙管理委員会の状況確認
4	2月23日(火)	① 連絡・報告事項：短期大学（部）スポーツ大会の反省会の結果 ② 連絡・報告事項：飛鷗祭振り返り ③ 連絡・報告事項：選挙管理委員会支援活動報告 ④ 連絡・報告事項：2009年度の学生会決算状況 ⑤ 連絡・報告事項：謝恩会企画進捗状況 ⑥ 連絡・報告事項：2010年度の学生交流会企画進捗状況 ⑦ 連絡報告事項：1・2年生からの国家試験激励について ⑧ 審議事項：今年度の活動のまとめ ⑨ 審議事項：2010年度前期ガイダンスについて

(4) 現代文明論運営委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は、現代文明論委員会の規程にもとづき、現代文明論の講義編成、運営を行う。

B 活動概要

受講用紙は、今年度より、授業担当の講師より提示された『問い』に対し、「自分の意見」の欄に、問いへの回答を記載するようにした。その結果、講義概要をさらに発展させた形での意見が述べられるようになった。

課題レポートの記載では、「序論・本論・結論を意識した記載」が難しかった。そのため、後期のガイダンスではレポートのテーマの絞り方・序論の記載方法について説明するとともに、文字数を昨年までの1000字以内から「1000-1200字以内」に増やした。その結果、序論の記載内容が改善した。

「まとめ」のグループワークに関しては、主に2つの学習効果が得られた。1つは友人の意見を聞いて、考え、感じ、意見を持つなど、意見交換による視野の広がりである。もう一つは、レポートの表現、文章構成、表やグラフの使い方などレポートの表現・作成形式に関する学びであった。

授業評価は、現代文明論Ⅰ・現代文明論Ⅱのいずれも高い評価であった。〔授業についてよかった点〕は70%前後の保持できていた。〔改善して欲しい点〕は極少数であり特記すべき傾向はなかった。

次年度への課題は、課題レポートの書き方全般について、評価の視点をより理解できるような指導が必要。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月6日(月)	① 現代文明論運営委員会の役割と2009年度の運営 ② 2009年度授業構成の確認
2	6月16日(火)	① 授業の現状報告 ② 現代文明論連絡調整会の報告
3	7月23日(水)	① 授業の現状報告 ② 第14回まとめレポート、採点後の話し合い
4	8月6日(木)	① 現代文明論Ⅰの成績評価について ② 受講用紙返却準備
5	9月16日(水)	① 現代文明論Ⅰ授業評価の結果 ② 現代文明論Ⅱの授業運営
6	12月23日(水)	① 授業の現状報告 ② 現代文明論連絡調整会の報告 ③ 2010年度現代文明論Ⅰ・Ⅱシラバスについて ④ 第14回「まとめ」について
7	2月9日(火)	① 現代文明論Ⅱの成績評価について ② 講師への依頼手続きに関する書類の見直し
8	3月16日(火)	① 現代文明論Ⅱの授業評価について ② 2009年度活動のまとめ(委員会報告) ③ 受講用紙返却準備 ④ 現代文明論委員会の規程についての審議

(5) 国家試験対策委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は学長の諮問機関である。3年指導教員・2年指導教員代表および学生の代表委員で

構成され、事務室の国家試験担当と連携協働しながら、国家試験に全員合格することを目的とし支援をする。尚、委員会報告については、適宜教授会で報告を行う。

B 活動概要

学生の国家試験対策委員と連携しながら第 99 回看護師国家試験の受験対象学生の全員合格をめざし、前年度の活動報告の結果を踏まえつつ、国家試験対策ガイダンス、学習教材の選択、グループ学習および個別指導、模擬試験、補習講義日程及び内容等を計画し実施した。

下級生対策としては、学生の国家試験対策委員と協働連携しながら、模擬試験の実施、業者ガイダンス、3年生国家試験反省会などを行った。また学内の成績結果および模擬試験を踏まえ自己学習支援を行った。

既卒者への対応は、事務室の国家試験担当者を通して補習講義日や模擬試験の日程等の情報を提供した。さらに、模擬試験結果返却時に、学習アドバイスや応援メッセージを同封し、学生のモチベーションが向上するよう心がけた。

その他、自己学習の充実を図るため、ネット講座の情報提供、補講用 DVD、看護師国家試験過去問題解説、模擬問題等の WEB サービスの導入等を活用した。

今年度新たに導入した WEB サービスや補講に関する DVD 等の利用は、図書館の改修工事と重なり十分活用できていなかった。今後は、学内の学習教材の内容を学生に知らせると同時に活用方法についても、周知できるよう働きかけを行うと効果的に学習を行うことができると思われる。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月9日(木)	① 2009年度の活動方針と計画立案 ② 委員会の構成と役割の確認 ③ 具体的な取り組みについて ④ 学生への情報提供のあり方 ⑤ 国家試験対策についてのオリエンテーション ⑥ テキストおよび参考書類の選定について ⑦ 模擬試験について ⑧ 補講およびグループ学習の考え方 ⑨ 低学年対策について
2	4月15日(水)	① 3年生の成績の実態について ② 要学習支援者のグループ編成と支援方法について ③ 模擬試験監督の担当および事前準備・事後の処理について ④ 図書購入について ⑤ 小グループ編成および担当教員について ⑥ 年間補講計画及び補講内容について
3	8月31日(月)	① 2年生・3年生の活動計画および進行状況について ② 学内および業者模試の結果と対策
4	1月14日(木)	① 3年生の今後の計画の確認 ② 業者模試の結果と対策 ③ 受験票配布日の日程と内容 ④ 低学年の取り組みについて ⑤ 3年生の委員の反省会参加などについて

5	2月23日(火)	① 学生の国家試験対策委員の活動評価・反省会
6	3月11日(木)	①今年度の評価・次年度への引継ぎ内容の確認

(6) 国際交流委員会

A 位置づけ・役割

- ① デンマーク看護研修に対する支援
- ② 航海研修およびハワイ語学研修への支援
- ③ その他

B 活動概要

2008年度よりダンホステル(ユースホステル)の利用を促進してきたが、今年度は空き室がなく利用できなかった。また、長距離の移動手段はバスの活用が望ましいため、費用面での効率化は図れなかったが、今年度の課題であったデンマーク看護師協会訪問における学生の活性化については、事前準備を整えることで非常に活発な質疑が行われた。また、望星国民高等学校の利用はスケジュール的に厳しかったが、現地学生との交流は有意義との評価だった。オーフス地区での研修も活発であった。次年度の研修プログラムの準備は、順調に進んでいる。

その他の研修へも参加への呼びかけを強化したが、参加者はハワイ語学研修に1名のみであった。

今年度末に、デンマークより看護学生の来日が予定されており、担当教員を定めその準備を行っている。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	6月15日(月)	① 2009年度デンマーク看護研修経過報告 ② 2009年度ハワイ語学研修について
2	11月11日(水)	① 2009年度デンマーク看護研修報告・評価 ② 2010年度デンマーク看護研修に向けて a コミュニケーション補助について b 望星国民高等学校について c デンマーク看護師協会について d 研修日程・費用について ③ 2009年度ハワイ語学研修、海外研修航海参加者について
3	12月22日(月)	① 2009年度デンマーク看護学生研修受け入れ準備について
4	3月17日(水)	① 2010年度デンマーク看護研修準備状況 ② 2009年度反省

(7) 人権委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は学長の諮問機関である。学生の教学上(教育、研究及び課題活動を含む学生生活)、業務上等の関係を利用してなされるセクシュアル・ハラスメント防止と被害者の救済を行う。

B 活動概要

セクシュアル・ハラスメントに関する苦情相談、救済と対応のため相談窓口を設置する。相談委員名については、学生ガイダンスおよびキャンパスナビに記す。

2009年度は教員の指導に関する言動、教員間における言動などの相談があった。しかし、相談委員の対応のみで解決でき、調査委員会等の立ち上げの必要はなかった。

相談委員が実習等で不在の場合でも、すぐに相談ができるように、連絡先等を掲示するなどの工夫が必要である。

C 委員会開催状況

定例会議は実施せず、前期および後期に各1回相談状況の確認と対策について報告をおこなった。

(8) FD委員会

A 位置づけ・役割

大学設置基準・短期大学設置基準の改正により、2008年4月から大学・短期大学におけるFDが義務化された事をうけ、同年、本学における教員の資質開発を目的としFD委員会が設置された。委員会は、以下の活動を行う。

- a 教育活動支援
- b 研究活動支援
- c その他、教員の関わる活動に関する支援

B 活動概要

3回の教員研修会を企画し実施するとともに、委員会規程作成、および5年間の長期研修計画を立案した。研修会は以下のとおり。

- a 第1回 教員の研究力向上を図り、研究活動の活性化と質の高い研究の増加、それによる教育への還元を期する目的で、研修会を開催した。

テーマ：「看護研究における倫理的配慮と倫理審査をめぐる諸問題 ―一般的ガイドラインをもとに―」

内容：看護研究に必要な一般的な倫理的配慮、一般的倫理審査基準とそれを満たすための具体的条件、倫理的に問題と考えられる例、よくある質問とその回答

講師：佐久大学看護学部 小西 恵美子 教授

日時：2009年6月20日（土）

出席：25名（教員18名、外部からの出席者7名（付属病院4名、大磯病院3名））

- b 第2回 2008年度ティーチング・オブ・ザ・イヤー受賞者による模擬講義

テーマ：「生活過程を整える看護技術Ⅲ ―“知る、わかる”レベルから“実感できる”授業をめざして―」

内容：「生活過程を整える看護技術Ⅲ」の一単元、「排泄」の演習における『可視化』と『体験からの実感』を意識した授業

講師：基礎看護学 林 真理子 准教授

日時：2010年2月24日（水）

出席：教員19名

- c 第3回 カリキュラム評価を元に、課題である「考える力」を伸ばす教育のあり方の具体的方法について考えることを目的としてワークショップを開催。

テーマ：「授業研究－考える力を伸ばす教育のあり方－」

内容：「考える力を伸ばす教育とは」の講義、グループディスカッション、講評

日時：2010年3月1日（月）

出席：教員17名

まとめと課題 研修会は年3回で妥当であった。それぞれに学びは大きかったが、研究倫理については、より具体的なことを知りたい要望があり、今後再度機会を設ける必要がある。委員会メンバーの人数が少ないため当日の進行について教員の協力を要請する。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月13日（月）	① 活動計画 ② 活動日程
2	5月13日（水）	① 第1回FD研究会「看護研究の倫理について」の経過報告 ② 短期大学（部）FD経費支援申請について
3	6月3日（水）	① 第1回FD研修会「看護研究の倫理」準備 ② FD研修会「考える力を高める教育」について
4	7月1日（水）	① FD研修会「考える力を高める教育」について ② 2008年度ティーチング・オブ・ザ・イヤー受賞者による講義について ③ 医療情報システムの研修について
5	8月5日（水）	① 第1回FD研修会の評価 ② FD研修会「考える力を高める教育」について
6	9月2日（水）	① 2009年度第1回FD研修会に関するご質問・乾燥と委員会の回答 ② 東海大学医療技術短期大学FD委員会規程について ③ FD長期計画について ④ FDワークショップ「考える力を伸ばす教育のあり方－具体的授業案作成－」について
7	11月4日（水）	① 東海大学医療技術短期大学FD委員会規程 ② FD長期計画 ③ FDワークショップ「考える力を伸ばす教育のあり方」
8	12月9日（水）	① FDワークショップ「考える力を伸ばす教育のあり方」 ② FD長期計画
9	1月13日（水）	① FD長期計画に対する意見の検討 ② FDワークショップ「考える力を伸ばす教育のあり方」授業場面のフォーマットの検討
10	1月20日（水）	① FDワークショップ「考える力を伸ばす教育のあり方」の今後の予定 ② ティーチング・オブ・ザ・イヤーの模範授業
11	2月18日（木）	① ティーチング・オブ・ザ・イヤーの模範授業の最終確認 ② FDワークショップ「考える力を伸ばす教育のあり方」の最終確認

12	3月11日(木)	① ティーチング・オブ・ザ・イヤーの模範授業の実施評価 ② FD ワークショップ「考える力を伸ばす教育のあり方」の実施評価 ③ 2009年度の研修会のまとめ ④ 2010年度の計画
13	3月24日(火)	① 2010年度の計画

(9) 倫理委員会

A 位置づけ・役割

人を対象とする研究活動においては、研究者はいかなる研究対象者に対しても、人として尊重され、その人権が擁護されることに責任をもち、さらに、他者および自己の知的財産権を保護することにも責任をもつ義務がある。本委員会は、これらの責任および義務を遂行するために、東海大学医療技術短期大学研究倫理指針の基本原則を示し、種々の研究活動における倫理的側面に対して、これを審査することを目的とした委員会である。

B 活動概要

本委員会は3年目を向かえ、委員会開催は10回、審査件数は学内9件、学外3件であった。2009年度の委員会活動の概要は、以下の通りである。

- ①「倫理審査申請の手引き」を作成し配布できた。また、本手引きはWeb上に載せることとした。
- ②申請者の初回申請時からの委員会への参加が実行された。
- ③申請は再審査までとしたが、申請者の審査会への参加により、問題なく審議が進められた。
- ④申請者が希望した場合、審査内容の録音を認めることとしたが、活用者はなかった。
- ⑤本学学生対象の研究データ収集に関して(学生へのアクセス緩和検討希望の意見を受けて):従来通り、「事前に掲示し、授業に影響しない時間帯に任意に集まった学生を対象に協力者募集の説明を行う」が再確認された。
- ⑥委員会メンバーのFDは、東海大学における関連研修への参加を計画したが、開催がなく参加できず、各委員の個人的学習に終わった。
- ⑦次年度の初回委員会開催予定は、5月7日と決定された(これを受け、申請者への申請書類提出期限の周知を本年度中に行う)。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	5月27日(水)	① 研究計画に対する倫理審査5件:3件承認(可)、1件審査対象外(研究者・研究対象者学外)、1件が不可となる。 ② 倫理審査委員のFDについて
2	6月17日(水): 臨時委員会	① 研究計画に対する倫理審査2件:1件承認(可)、1件不可となる。 ② 臨時審査委員会開催について
3	7月15日(水)	① 申請書類(研究事項変更届)について ② 倫理審査申請の手引きについて ③ その他: * 「研究代表者が本学所属の場合には、研究対象者の所属に

		関係なく、まず本倫理委員会の審査を受ける」につき再確認される。 * 「倫理委員会における録音については、研究者が希望する場合には許可する」ことを確認する。
4	9月9日(水): 臨時委員会	① 研究計画に対する倫理審査1件:承認(可)
5	9月16日(水)	① 研究計画に対する倫理審査2件:1件承認(可)、1件取下げとなる。
6	11月18日(水)	① 研究計画に対する倫理審査1件:再審査となる。
7	12月22日(水): 臨時委員会	① 研究計画に対する倫理審査1件:承認(可) ② その他: (ア) 申請書類の提出期限について:提出期限最終日が休日である場合の取り扱い (イ) 倫理審査委員のFDについて:伊勢原キャンパスおよび湘南キャンパスにおいて開催される倫理審査委員FDへの参加の実施
8	1月20日(水)	① 研究計画に対する倫理審査2件:2件共再審査となる。
9	2月17日(水)	① 研究計画に対する倫理審査4件:4件共承認(可)される。 ② 委員会の運営に関して: * 2010年度委員会開催日程について * 研究対象者へのアクセスについて
10	3月17日(水)	① 2010年度第1回委員会開催日について:日程決定に伴う申請書提出期限の周知 * 研究対象者へのアクセスについて:

(10) 教育年報編集委員会

A 位置づけ・役割

第三者評価機関による外部評価が義務付けられたことを受け、教育年報は自己点検・評価の一環として位置づけられるとともに、広く社会に本学の教育研究活動の取り組みを公表することを通し批判を乞うことを目的として発刊する。本委員会は、その趣旨に基づき、以下の役割を担う。

- 1 教育年報の趣旨に基づき、その構成、記載方法に関する基準を作成し、適宜改訂する。
- 2 提出された原稿が基準に則り適切に記述されているかを査読する。

B 活動概要

教育年報の意義、構成等について東海大学および他学の状況を参考に検討した上で、冊子による発刊を中止し、ウェブ上に公開することを決定。さらに東海大学医療技術短期大学教育研究年報「作成の手引き」およびテンプレートを作成し、それをもとに、教職員に原稿執筆を依頼した。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	1月21日	① 年報作成の意義について ② 年報の構成について

2	2月4日	① 年報の構成および内容について
3	2月15日	① 年報の構成の詳細について
4	2月26日	① 年報の「作成の手引き」について
教授 会	3月10日	東海大学医療技術短期大学教育研究年報「作成の手引き」についての報告